

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
地域文化論 Area Cultural		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	観光ビジ初実務士必修	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
観光学概論、観光事業論、地域観光論、経済学、日本の歴史と作法、国内観光地理				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
国際観光論、地域観光論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
國分三郎	本館 2F	木曜日 12:10~13:00		授業中に指示します
授業の概要				
地域文化の重要性を考えた後に、その現状と振興のための施策を概観する。その後、地域文化を教育や経済との関係で捉えその意義を考える。また、地域文化をより身近な事象としてとらえるために、佐野市の地域文化を具体的に取り上げるので、受講者は地域文化を身近なものとして捉えられるようになる。				
授業の目標				
社会における地域文化の意義を理解して街づくりや教育、観光における意義や有用性を考えることができるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義方式であるが出来るだけ対話方式を取り入れて受講者の理解を深めたい。また、DVDなどの映像も使用して理解を深めたい。				
学習の成果（学習成果）				
①街づくりにおける地域文化の意義とその振興の重要性を理解して、街づくりのための具体的方策を考えることができる。 ②栃木県および佐野市の伝統文化を説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	はじめに(シラバスの説明、講義の狙いと進め方、成績評価の説明、受講の態度の説明)			
第2回目	文化に対する一般的な理解私たちの生活における文化の意義			
第3回目	地域文化の有用性と私たちの暮らし			
第4回目	地域文化の現状と課題			
第5回目	わが国における地域文化の振興について①(地域文化振興の本質的意義、地域社会を活性化する文化力)			
第6回目	わが国における地域文化の振興について②(地域文化の現状、民間における地域文化の支援、国における地域文化振興策)			

第7回目	栃木県における地域文化の現状とその振興について	
第8回目	教育における地域文化の意義 小テスト	
第9回目	伝統文化を活用した教育の事例(佐野市、富山県高岡市など)	
第10回目	街づくりにおける地域文化の意義	
第11回目	伝統文化や観光し資源を活用した街づくりの事例(栃木県益子町、長崎県小値賀島など)	
第12回目	佐野市の伝統文化①(天明鋳物、人形)	
第13回目	佐野市の伝統的食文化②(ラーメン、いもフライ、いちご、天明鋳物)	
第14回目	地域文化に関する理解度を確認するため、講義全般の範囲を対象とした試験。	
第15回目	まとめと講座の振り返り。授業の補足すべき内容の説明や受講者からの質問に答える	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準(S)としては無遅刻無欠席で、授業に集中し講義への質問を積極的に行う。
レポート		
調査報告書		
小テスト	10%	最高水準(S)としては、5つの専門用語を90%の正解をもって解答する。
試験	60%	最高水準(S)としては、課題の意図を理解して、必要な専門用語を使い論理の一貫性をもって論述する。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書は使用しない。授業のたびに必要な資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
無断欠席、や遅刻、私語は慎むこと。これ等は評価の対象。遅刻3回で無断欠席1回分とする。飲食物の持ち込み禁止。携帯はマナーモードにする。		